

学校だより

NO 13

令和4年9月1日発行



倉中だより

伊勢市立倉田山中学校
伊勢市神田久志本町 1645-2
校長 金森 晃 生
電話 22-9415
FAX 22-2198
E-mail
kuratayama@jr.ise-
mie.ed.jp

学校教育目標 「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」

9月1日は何の日？

防災の日 です

みなさんは知っていましたか？防災の日って？

防災の日は、昭和35年（1960）年6月11日の閣議（国務大臣が集まって話し合われる会議）で、9月1日を**防災の日**とすることが了解されたことに始まります。

9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日（立春から数えて210日目：季節の移り変わりの目安の日）に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和34（1959）年9月26日の「伊勢湾台風」によって、台風としては戦後最大の被害（全半壊・流失家屋15万3,893戸、浸水家屋36万3,611戸、死者4,700人、行方不明401人、傷者3万8,917人）を被ったことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。

次に、昭和35年9月1日発行の官報（国の広報紙）資料に登載された「防災の日」の創設に関する記述を紹介します。

「政府、地方公共団体（県や市町村）など関係諸機関はもとより、広く国民の一人ひとりが台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようというのが、『防災の日』創設のねらいである。もちろん、災害に対しては、常日ごろから注意を怠らず、万全の準備を整えていなければならないのであるが、災害の発生を未然に防止し、あるいは被害を最小限に止めるには、どうすればよいかということ、みんなが各人の持場で、家庭で、職場で考え、そのための活動をする日を作ろうということで、毎年9月1日を『防災の日』とすることになったのである」と制定の主旨が記されています。

ところで、「防災」とは、どんな言葉の意味を持っているのでしょうか。広辞苑には、「災害を防止すること。」と簡記されていますが、災害対策基本法では、「災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、及び災害の復旧を図ることをいう」（第二条第二号）と定義しています。

2011年3月11日14時46分ごろ東北地方太平洋沖地震が起きました。みなさんはまだ幼いときでしたが覚えていますか。この地震で受けた多くの災害を東日本大震災とよんでいます。地震・津波・液状化現象・原子力発電所の問題・汚染水の問題・住宅・就業・その他数え切れない多くの課題が今もなお残されています。がれきの整理など目に見える限りではかなり復興してきています。しかし心に残った傷が癒やされることはまだまだありません。震災を受けた人たちは戻りたくてもまったく以前と変わらない生活に戻ることはできません。またそれ以後にも、九州での地震やさらに大雨や台風など風水害もあちらこちらで起こっています。みなさんはこの災害を自分のこととして感じたり、考えたりしたことはありますか。災害はいつどこで起こるかわかりません。倉田山中学校は少し高いところにありますが、伊勢市は海に面し、大きな川もあります。津波の心配もあります。水害の危険もあります。このような自然災害を私たちの手で防ぐことはなかなかできません。しかし、災害被害を少なくすることはできるのです。

防災では、自助（自分の命は自分で守る）・共助（地域など自分たちは自分たちで守る）・互助（自分ができるのであれば、周りの人を助ける）・公助（消防など行政機関等が守る）という言葉があります。その中でもまずは「自助」。日常生活の中で、あらゆる場面で「自分の命は自分で守る！」さらにいざという時に「自分で考え行動できる！」そんな力をつけることが大切です。そのために少しでもまわりの人のことや、自分が何をすればよいのかなど、もしもの時のことを考えながら生活してみてください。

そしてこの機会に災害に対して家族でいったいどのようなことができるのか、万が一の時はどうするのかなど、しっかり話し合ってもらいたいと思います。そのように準備をすることも「防災」にとって大変重要なことです。

一人ひとりがどうすれば災害被害から身を守れるかしっかり考えてみましょう！

～ 保護者のみな様へ ～

日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、さらに各ご家庭でも検温、マスクの着用等、感染症予防対策にご協力いただきありがとうございます。これからも引き続き、ご協力ください。

学校が再開され3日がたちました。学校生活のリズムがまだ取り戻せない生徒もいます。朝夕と昼の温度差も大きくなり、体調を崩しがちです。体調を崩しての、保健室への来室もあります。できるだけ早くリズムを取り戻してほしいところですが、無理のないようご家庭でも生活リズムを整えてください。